

フィッシュボウル方式のディスカッション練習における 学習者のビデオアノテーション結果の分析

山口昌也（国立国語研究所）

柳田直美（一橋大学）

背景と目的

● フィッシュボウル方式のディスカッション練習

- ディスカッションの観察とふりかえりによる自発的な気づきを重視した協同型の練習方法（大塚・森本(2011)を基本とする）
- 観察とふりかえりに観察支援システムFishWatchr Miniを導入
- 大学の「話し合いトレーニング」の授業の一環として実施

● 観察支援システムFishWatchr Mini

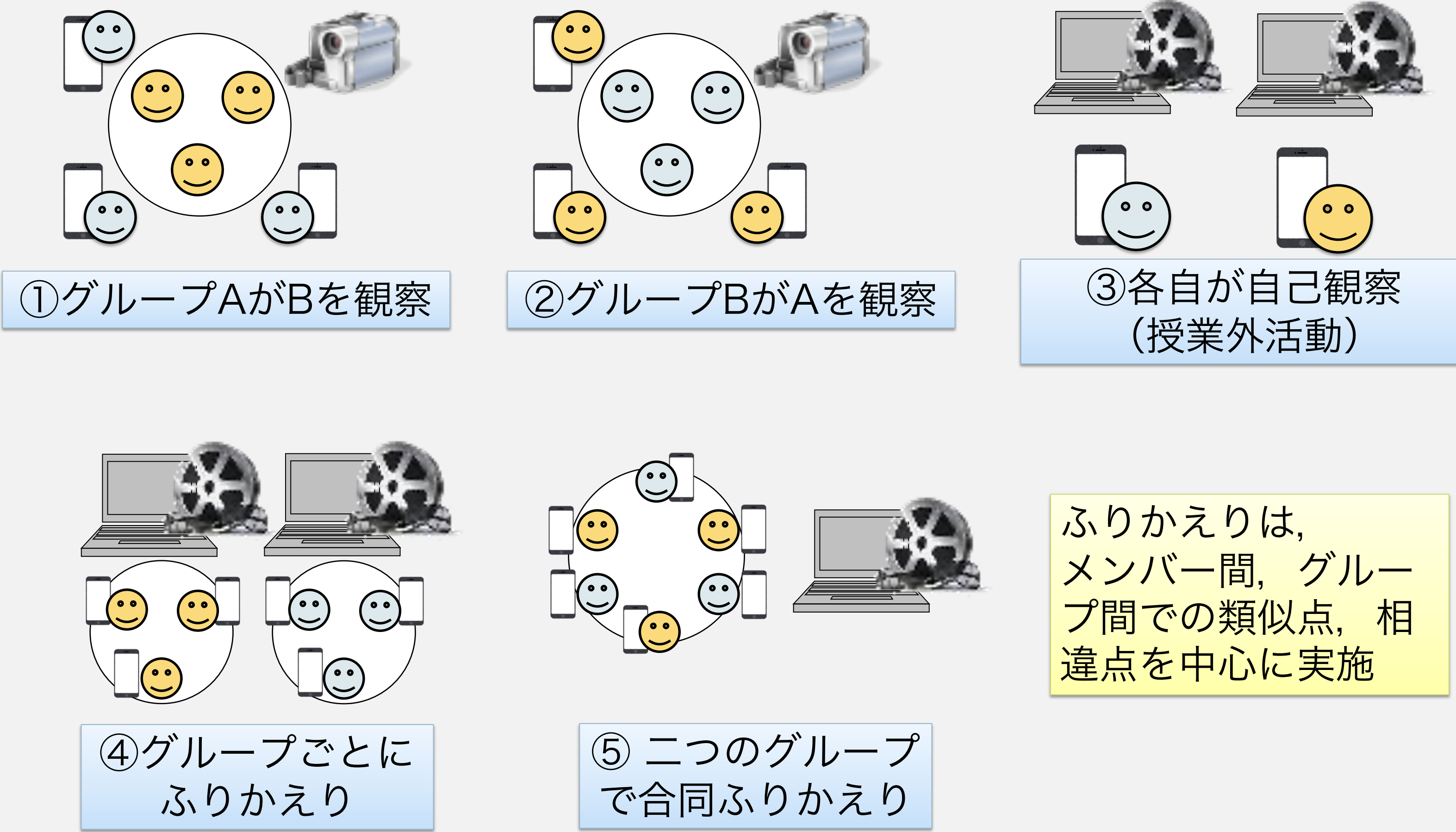
- スマホなどのモバイル機器で観察とふりかえりを支援
 - グループ単位でリアルタイムに練習を観察
 - 観察結果の視覚化、同時収録したビデオと観察結果との同期によるふりかえりの支援
- ビデオを用いた、自己観察にも対応

- ・ 学習者のアノテーション結果をふりかえり支援に活用することを目的に分析
- ・ 分析時には、アノテーション結果の特徴（相違点、類似点）を視覚化



(FWM のHP)

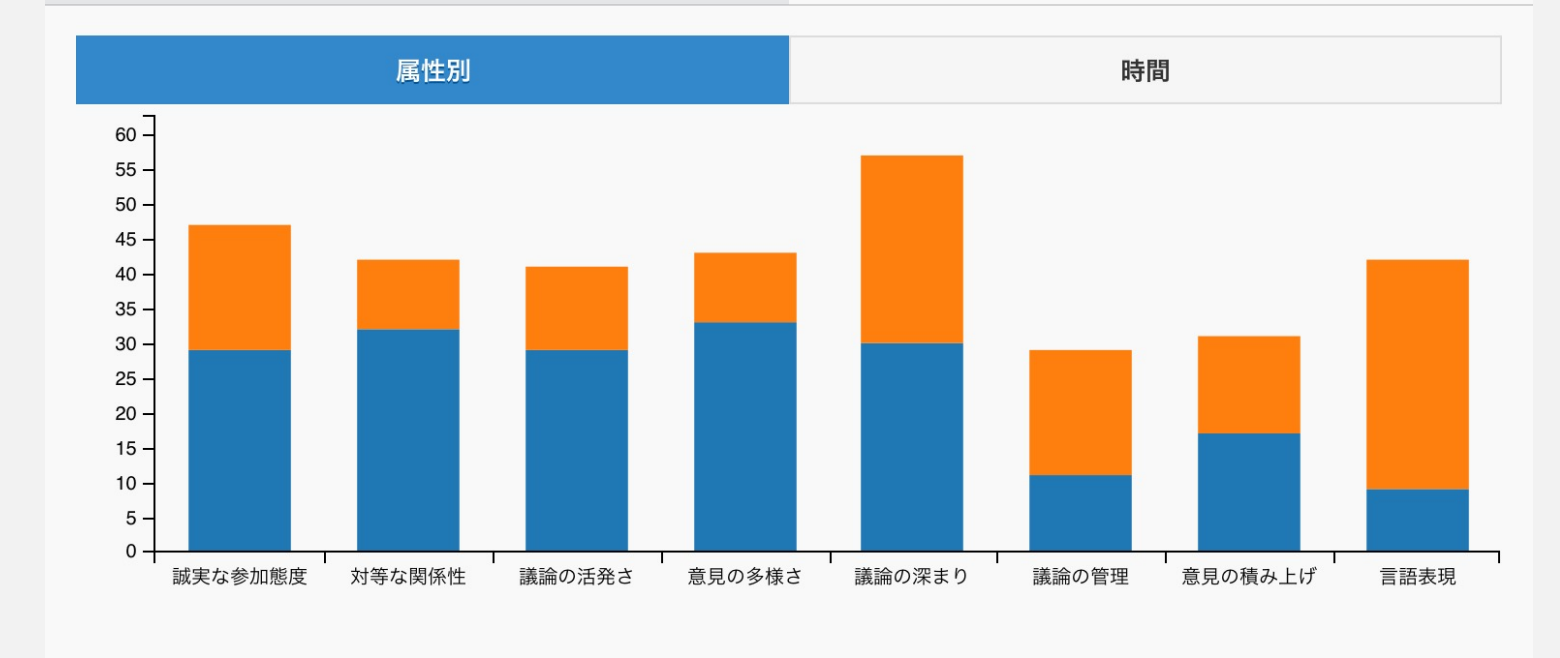
● フィッシュボウル方式による練習の流れ



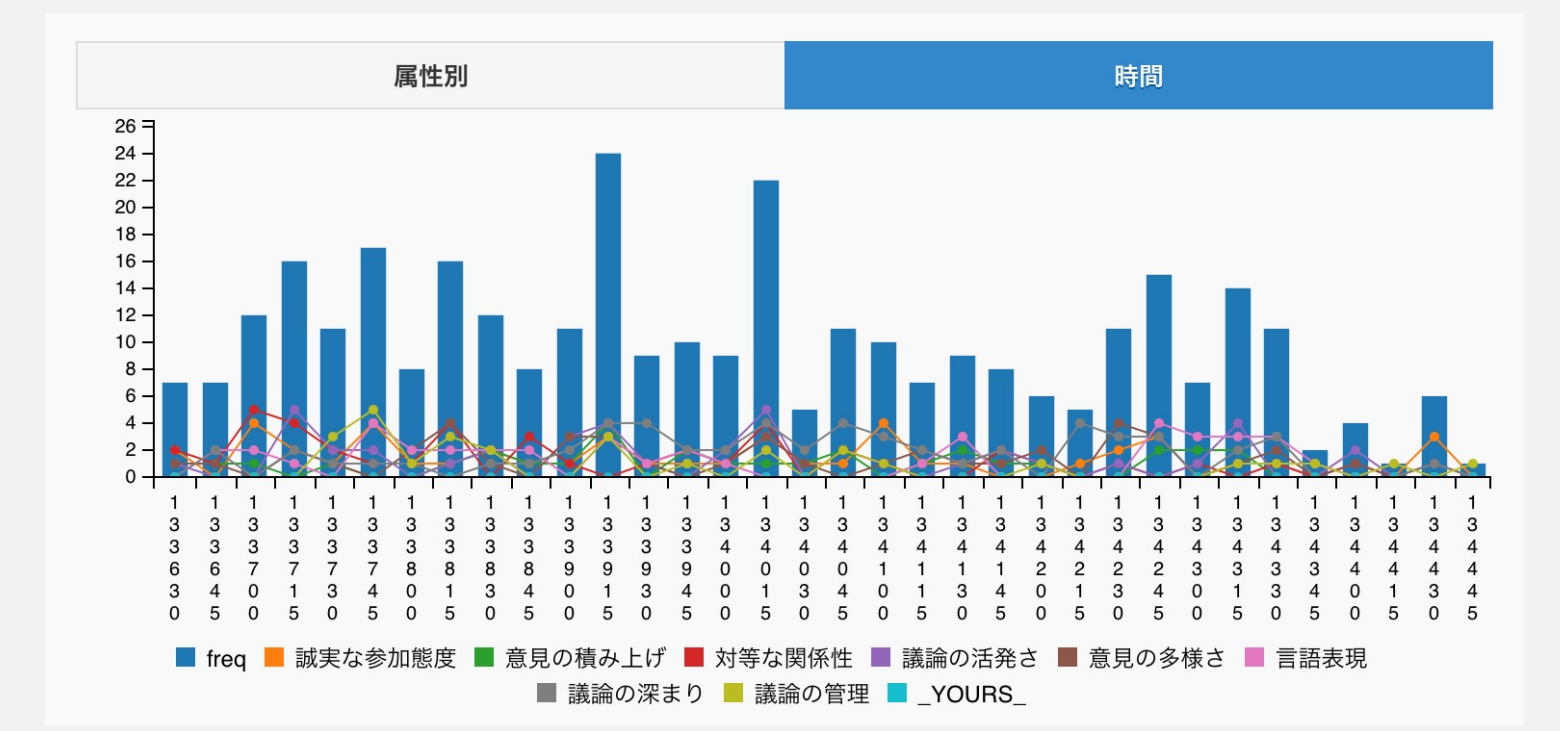
■ 観察用画面



■ 属性別グラフ



■ 時系列グラフ



アノテーション結果の視覚化による分析

● 視覚化の方針

- 複数のメンバー、グループの結果を一つのグラフに集約して表示
- メンバー間、グループ間の相違点、類似点が明確になるよう表示

⇒現在のFishWatchr Miniの表示だと難しいので、新たに考案

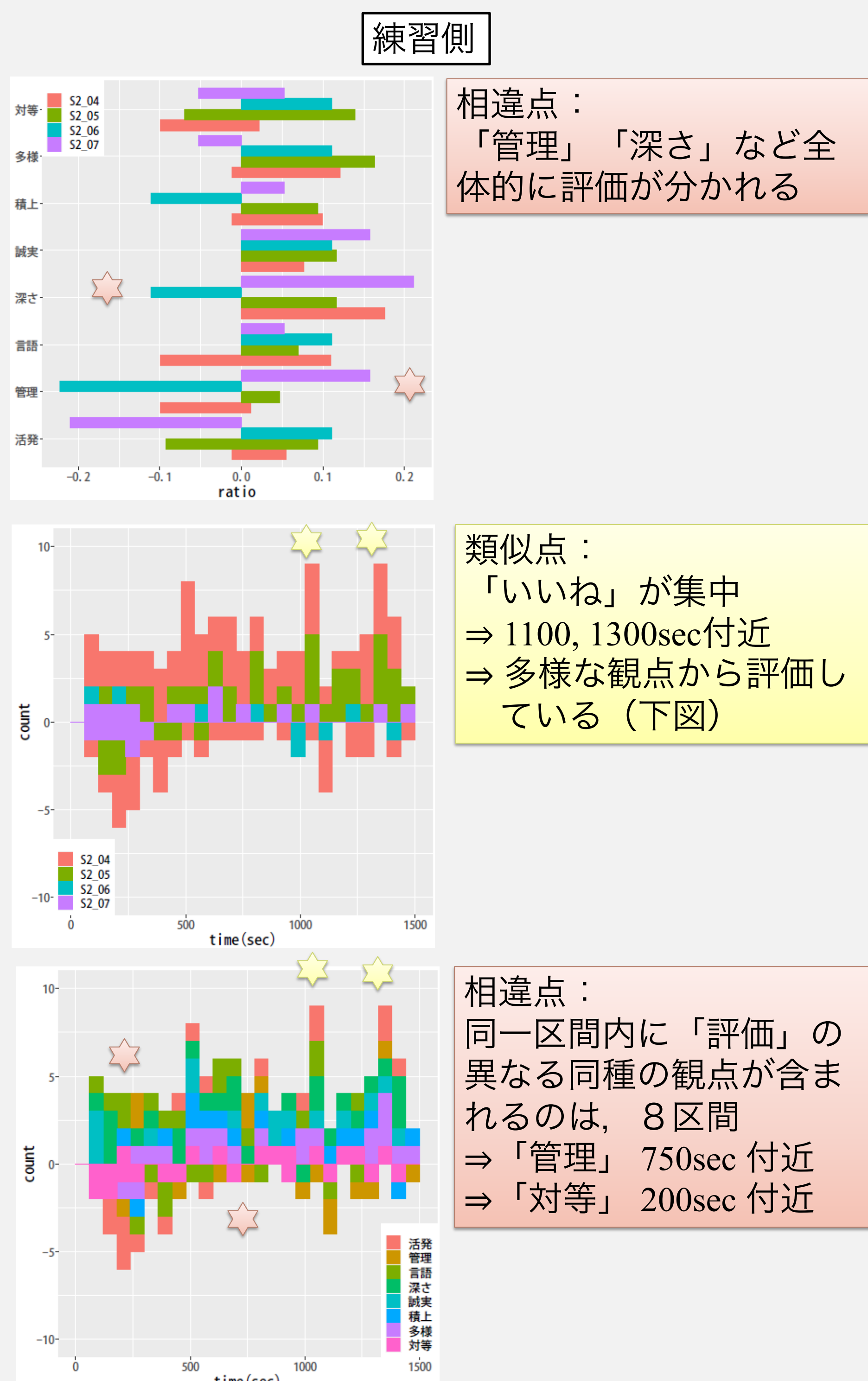
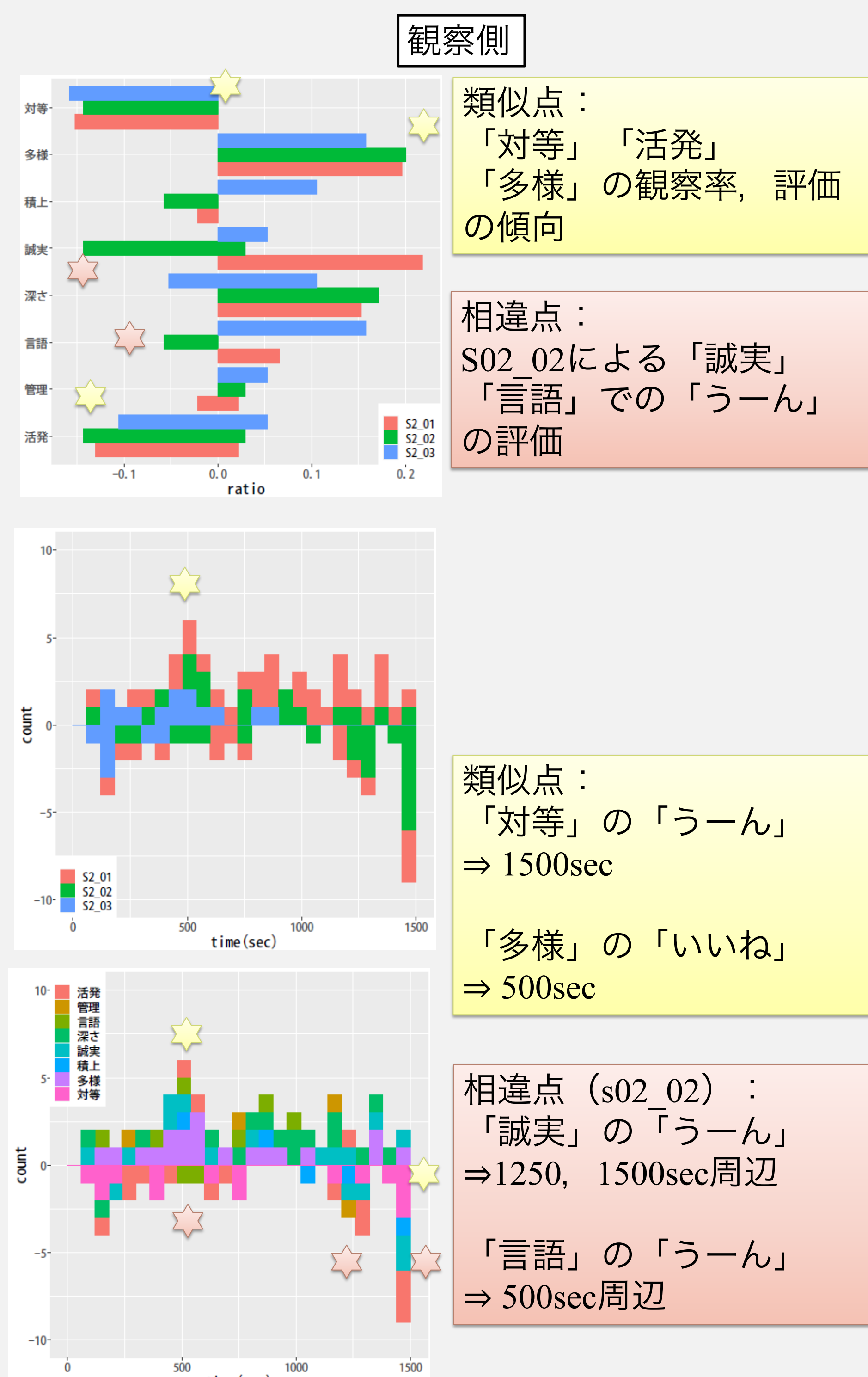
● 分析対象の実践

- 受講生は学部1年生14人（すべて留学生）
- フィッシュボウル方式の練習を合計3回実施
- グループ数は4。各回ごとにメンバー入れ替え
- 観察用ボタンは2属性（上記の観察用画面と同一）

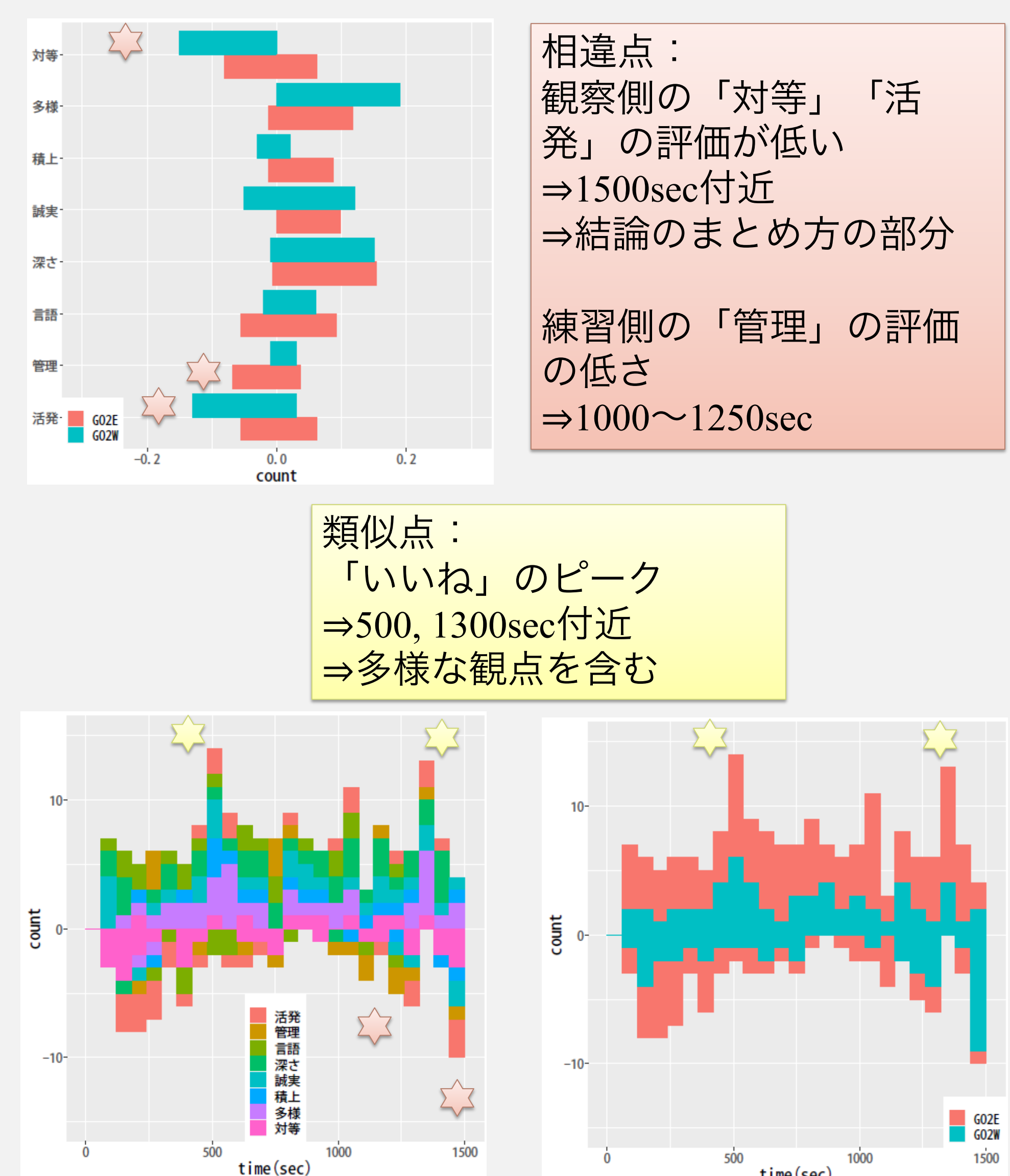
メンバー間、グループ間の相違点、類似点を抽出できるか、検証

分析結果

● メンバー間での比較



● グループ間での比較



まとめ

- アノテーション結果の特徴の視覚化方法を模索（メンバー間、グループ間）
- 1グループであるが可視化による特徴の分析

今後、より多くのアノテーション結果へ適用